科研費 This work is still supported by JSPS KAKENHI Grant Number 257070150 and 25610054



キセノンTPC、気液2相型と液体球状型

日本物理学会第73回年次大会

シンポジウム「素粒子・宇宙線・原子核・応用研究のためのユニークなTPC開発」

2018年3月24日

関谷洋之

東京大学宇宙線研究所

東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構

東京大学次世代ニュートリノ科学連携研究機構

菅澤佳世、石井瞭、伊藤好孝、増田公明

名古屋大学宇宙地球環境研究所

Ioannis Giomataris

Irfu, CEA Saclay

研究の動機と現状認識

- XMASS
 - 1相式液体キセノンシンチレーター





XMASSの到達点と問題点



すごい!

- 私にはできない。
- 10⁻⁵⁰cm²探索にはこれくらい必須



(c) Copper plate around boundary



低エネルギーでの表面バックグラウンド問題

- 電荷と時間情報によるLikelihoodベースのvertex reconstruction
 - 光電子数が少ない場合や情報が失われた場合 misreconstuctionが起きる
 - 特に検出器表面で起きたBGイベントが有効体積中に 誤って再構成されるのが問題
 - AI等を使用したとしても、本質的に解決できない。
- ハードウエアによる本質的改善が必須
 -「XMASS 1.5」という最初のアイデア





Q reconstruction and T cuts



世界は3桁先を行っている

• Light region



Standard region



SUSY-WIMPの発見のための次世代計画もNoble liquid

- Large mass/scalability especially Ar ← cost
- Large mass number especially Xe

→Passive BG rejection: self shielding by fiducialization

• Purification→low BG XMASS!!



XMASSのRIは他と同レベルむし ろ少ないくらいなのに負けている

せっかくのnoble liquid detectorの性質を使いき れていない

結局Ar/Xeの10トンクラス の 2相式TPCばかり

日本物理学会第73回年次大会 シンポジウム

Noble Liquid detector

- scintillationとionizationの両方を検出可能
 - 高いシンチレーション効率 + 高い電離電子生成率
 LXe: W_{ph}=14.7 eV W=15.6 eV
 - 自身に対して「透明」、長い透過長
 - 電場をかけた場合のドリフト速度も大きい
 - ~1cm/µs @1kV/cm
- 励起とイオン化の比率からPID可能





E. Aprile Phys. Rev. Lett 97(2006)



日本物理学会第73回年次大会 シンポジウム 東京理科大 2018.3.24

→ Active BG rejection

やはりTPCでハード的に位置を再構成できるべきだ TPCとしては、電荷読み出しではなく比例蛍光を利用 ガス中の方が簡単:二相式 液中ドリフト:ガス中電荷増幅



Start: S1 Direct interactionにPrimary scintillation Stop: S2 S1発光時の電離電子を電場によりドリフトし、高電場で 電荷増幅した際に発光するproportional scintillation

現在2相式Xe-TPCがもっとも成功 長期間の測定では気相-液相間の液面管理の問題

S2発光まで液中で行う1相式液体TPCを考える 液体のみなので形状に自由度ができる

「キセノンTPC、気液2相型と液体球状型」

I. 2相型をやるならXENONへ

 XMASSの一部が参加 詳細は Martens 23aK301-10 2018年2月のKMI school E. Aprilのスライドから引用



The XENON Collaboration: 160 scientists



関谷洋之

ちなみにArでも

• DEAP → DarkSide 20kに合流

arXiv:1707.08145v1

DEAP-3600 @ SNOLAB

Single-phase liquid argon (no E-field)

- 3.6 T of LAr, \sim I T fiducial
- High ³⁹Ar background when using ^{nat}Ar (~1 Bq/kg)
- Excellent discrimination using pulse shape. Prediction: ~10¹⁰ ER suppression
- Higher energy threshold compared with Xe detectors
- Collecting data since late 2016
- Projected sensitivity 10-46 cm2 @ 100 GeV/c²









- · Detector still running smoothly and taking data with high efficiency
- SR0 (34.2 days): best SI limit 7.7 x 10⁻⁴⁷ cm² at 35 GeV/cm² (PRL 119, 2017)
- · SR1 (246.7 days): improved detector stability calibration statistics refined analysis
- Total Exposure: 1 ton-year for the estimated 1.3 ton fiducial mass!



- 3.2 t LXe @180 K
- 2.0 t active target
 - ~1 meter drift length
 - ~1 meter diameter
- Blind analysis
 - 間もなくData openの予定らしい

日本物理学会第73回年次大会 シンポジウム

液面の問題

圧力と液面のStability



日本物理学会第73回年次大会 シンポジウム 東

XENON nT

• 2019年スタート





- 8.5 t LXe @180 K
 - 5.9 t active target
 - ~1.5 meter drift length
 - ~1.5 meter diameter

• 476PMT

- A rapid upgrade to XENON1T, with a new TPC with 4 x target mass than XENON1T
- Most sub-systems, already operative, designed with this upgrade in mind
- Main challenge: reduce Radon by x 10



関谷洋之

日本物理学会第73回年次大会 シンポジウム

Ⅱ. 我が道を行く

- 既存のものを急いで有効活用したい(したかった。。)
- なるべくそのままなら「液体球状型」



- キセノン容器をそのまま利用して 「円筒形」も可能ではある
 - 例えば半径38.6 cm、高さ58.1 cmの
 Active volumeの円筒形を確保できる。
 - LXeの質量は約805 kgで今ほぼと同じ



液中S2

• 2相式より前、1970年代に元々はLXe Proportional counterの研究がされていた

日本物理学会第73回年次大会 シンポジウム

1相型LXeTPCへ向けての開発/検証項目

関谷洋之

日本物理学会第73回年次大会 シンポジウム

東京理科大 2018.3.24 298 ± 1

 750 ± 1

19.9/16

 $imes 10^{-2}$

本研究開発の方針

- ワイヤーによる液中でのS2を観測する
 - Aを用いて閾値400kV/cmを確認する
 - 課題:どこまで低エネルギーで実現できるか
 - ²⁰⁷Bi (0.55,1.05MeV γ, 0.98MeV β)

K. Masuda et al., Nucl. Instrum. Meth. 160 (1979) 247

- ¹⁰⁹Cd (22keV γ) 鈴木聡 日本物理学会Vol.53, No.3, 1998
- 210 Po (5.4MeV lpha) E. Aprile et al., 2014 JINST 9 P11012
- 球状LXe-TPCを見据えつつ、単純な形状でR&Dを行う。
 - ワイヤーを用いたXMASS円筒形化
 - 「球状電極」の開発

関谷洋之

関谷洋之

日本物理学会第73回年次大会 シンポジウム 東京理科大 2018.3.24

19

- キセノン量をセーブするための テフロンスペーサー導入

R8520-406

中身

- 光電面24mm口

• PMT: 電位はGNDであってほしい

- MEG用の低溶出ベースに+HV用のもの開発

日本物理学会第73回年次大会 シンポジウム 勇

日本物理学会第73回年次大会 シンポジウム 東京理科大 2018.3.24

21

S1 59.5keV signal @0V

S2 signal @ 4.5kV

FADC for analysis

Oscilloscope

• source-wire: $1 \text{cm} \rightarrow \sim 4\text{-}5\mu\text{s}$

関谷洋之

日本物理学会第73回年次大会 シンポジウム 東京理科大 2018.3.24

Start searching S2 from T₁+1.5us

5.5MeV αによるS2あって,59.5keVyによるものではない

• S1 spectrum @0kV

γ: 59.5, 26.4keV
X: 20.8, 17.8, 13.9keV
α: 5.49, 5.44MeV

S1,S2 and drift time distributions@ wire 4.5kV 800kV/cm @ wire surface

αイベントの様子 @4.5kV

Wire印加電圧依存性 4.5kV

• 4.7kV

関谷洋之

日本物理学会第73回年次大会 シンポジウム

東京理科大 2018.3.24

• 4.2kV

27

Wire印加電圧依存性 3.5kV

• 3.0kV

日本物理学会第73回年次大会 シンポジウム 東

低エネルギーイベント確認のため¹³⁷Cs 662keV外部照射

¹³⁷Cs 662keV外部照射のMC

- XMASSで分かっていたはずなのに
 - 穴だらけ 計4か所の大穴

- S1の662keVのピークは見えない
- ・ 上下PMT光量からの位置再構成も不可能

詳細は石井瞭 23aK301-9

きちんと「穴を塞いだ」検出器を作らねばいけない! (TPCでない)液体検出器の鉄則

ようやく球状検出器の話: ガスならば既存 • 球状ガス検出器 NEWS-G

A Novel large-volume Spherical Detector with Proportional Amplification read-out, I. Giomataris *et al.*, JINST 3:P09007,2008

- Simple and cheap
- Large volume
- single read-out
- Robustness
- Good energy resolution
- Low energy threshold
- Efficient fiducial cut
- Low background capability

日本物理学会第73回年次大会 シンポジウム 東京理

Ioannis's spherical detectors

関谷洋之

NEWS-SNO

日本物理学会第73回年次大会 シンポジウム

関谷洋之

日本物理学会第73回年次大会 シンポジウム 東京理科大 2018.3.24

35

Multi-ball「ウニ電極」

日本物理学会第73回年次大会シンポジウム 東京理和

日本物理学会第73回年次大会 シンポジウム

Multi ballsの効果

11+ balls 3D printer 試作品
 Ioannis recommends 11+ balls system

関谷洋之

\$ 1mm

5mmのネジ 有)+無し

10mm

関谷洋之

日本物理学会第73回年次大会 シンポジウム

フィードスルーの セラミックの部分が 焦げている

SHVコネクタ側の絶縁体 (PEEK)の部分にも変色あり

Feedthrough放電で 6kV安定にHV印加できず

計画

- ワイヤーを用いた定量的S1/S2測定
- 針電極の再検証
 - 80μm or 50μmの針を用意済み
- 11+ echinus / spherical IVCの設計
- できれば今のXMASSのShutdownの前にキャリブ レーションロッドにマウントして導入したい。

まとめと最後に

- 2相式キセノンTPCは暗黒物質検出器としてこれからも当面main streamであると思われる。
- 1相式TPCは「検出エネルギー閾値の高さ」「非一様で周辺部で弱いドリフト電場」といった原理的問題点があり、その解決のための開発として「ウニ電極の実現」をしなければならない。逆にこれが解決できれば、画期的な暗黒物質検出器になる。
- 将来の展開
 - -2相式検出器は無重力では使えない
 - ガンマ線衛星等へ
 - 宇宙空間でも利用でき、全方向に一様の感度を持つ、全く新しいタイプの 位置検出可能なエネルギー測定器

Thank you for your attention!

